

文化財 GUIDE MAP



歴史を訪ねて



▲ **16 算額** **D-3**

この「算額」は、大字下小見野に建立された光西寺観音堂に奉揚されている算術の問答額である。額文は、銅板に墨書で図形を示し、設問、答の数値、計算法や式の成立理由が書かれている。

これは、明治25年2月に奉揚されたもので、奉揚者として「関流算術学士小堤幾造門人 武州比企郡小見野住人 大谷鐵造撰」と記されている。

なお、社中として下小見野の人名、小堤幾造の門下生として大字中山の人名が列記されている。

(町指定有形文化財・歴史資料／平成10年9月10日指定)
下ハツ林923 コミュニティセンター内 光西寺より寄託



▲ **17 鱧** **D-2**

この鱧口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂權律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは権良勝の娘が熊野堂からゆずり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如来鱧口一面 応永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。

欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品／昭和36年1月25日指定)
大字下ハツ林586 薬師堂保存会



▲ **18 下廊囃子** **C-4**

下廊囃子は、角泉と同様、旧大宮市の木下地区より明治時代ごろ伝えられたと言われている。通常の囃子は、大太鼓・笛・鉦が各1つ、小太鼓が2つであるが下廊囃子連は鉦を2つ用いて演奏している。

(町指定文化財／平成29年2月22日指定)
大字上伊草下廊 下廊囃子連



▲ **20 地蔵菩薩立像** **C-3**

この地蔵菩薩立像は、比企能員の血を受けたという飯島氏一家の地蔵堂に安置されている。

室町時代末期の作といわれ、密木工法による木彫立像で貴重な文化財価値を持っている。にっこりとした豊かな面立、慈愛あふれる容姿が人々の心をひきつける。

この地蔵尊はひのき材で、彫りが深く見事で、像高は3尺2寸9分ある。昭和48年に解体修理し、復元された。

(町指定有形文化財・彫刻／昭和36年1月25日指定)
大字平沼626



▲ **21 稲荷塚古墳群** **C-1**

市野川の自然堤防上に築造されている古墳群である。かつては10数基の古墳が築造されていたと伝えられるが、今は稲荷塚古墳が1基認められるだけとなっている。稲荷塚古墳も3分の2程度が削平され、損壊の程度は著しい。昭和26年に周溝部と考えられる場所から、馬形埴輪(頭 脚部)が出土している。

(県選定重要遺跡・史跡／昭和44年10月1日選定)
大字下小見野

▲ **22 飯島囃子** **D-4**

飯島囃子連は、江戸後期に吉見町の飯島新田から伝わったとされている。五穀豊穡や、無病息災、交通安全を願って演奏している。また、戦前までは神楽も行われ、現在でも道具が残っている。

(町指定文化財／平成29年2月22日指定)
大字飯島 飯島囃子連



▲ **23 伊草獅子舞** **C-4**

伊草囃子のささら獅子舞の起源は江戸中期、明和2年のころといわれる。豊作と家内安全を神や仏に願いをかけて、舞を奉納する村ぐるみの行事である。

獅子は若衆の指導により小学生が中心に舞っている。昭和45年には獅子舞保存会が発足し、郷土芸能として受け継がれている。

善性寺で一庭舞い、伊草神社へ向かう道中700mを道太鼓の行列で進み、神社で三庭、大聖寺へ行って一庭を舞い終了となる。

祭礼は毎年9月15日午後2時に始まり、夕刻には終了する。

(町指定無形民俗文化財／昭和46年3月26日指定)
大字伊草 伊草獅子舞保存会



▲ **24 木造聖観音坐像** **B-3**

正泉寺は、天台宗浄光寺の末。この観音坐像は同寺の観音堂の本尊で、現在は魚藍観音とも呼ばれているが、厨子内の修理銘札によると正観音菩薩とある。

袈の寄木造り、玉眼、肉身の部分は金泥彩、衣の部分は胡粉地に彩色してある。納衣の両袖と裾を台座の下に左右相称に長く垂下している。美しく結い上げられた髪、鋭く張りのある顔、ボリュームのある体軀など独特の美しさが見られる。南北朝期の作。像高48.5cm。県内の法衣垂下像としては、比較的初期の作品と見られている。

宝暦9年(1759)の修理銘によると、中山の周廻の村々、川越北町中などに多くの信者がいたことがわかる。

(町指定有形文化財・彫刻／平成元年10月26日指定)
大字中山1209 正泉寺



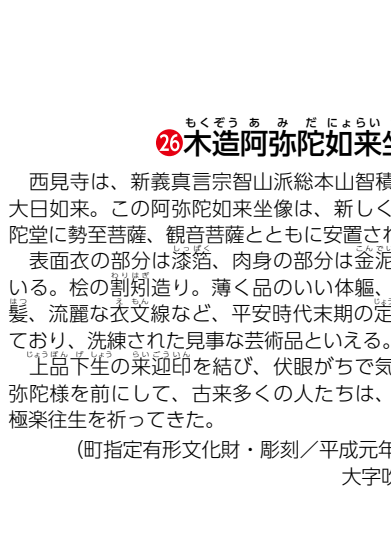
▲ **25 木造阿彌陀如来坐像** **B-3**

この阿彌陀如来坐像は、天正年間比企左馬助則員が中興したと伝えられる、真言宗智山派金剛寺の本尊である。則員の父政員の持仏として、かつて阿彌陀堂に安置されていたものを、本堂に遷座したものである。

鎌倉期の作、枳材寄木造りで、像高71.0cm。玉眼を嵌め、肉身分は金泥、衣部は漆箔をおく。肉髻珠、白毫珠とともに水晶を入れる。螺髪は髪際32列、地髪6段、肉髻9段に彫出する。耳朶は環状を呈す。通肩の納衣をまとい、上品上生の弥陀定印を結び結跏趺坐する。台座は三重の蓮華座である。

頭部首裏に「文正元年八月」の修理墨書銘がある。

町指定有形文化財・彫刻／平成元年10月26日指定)
大字中山1198 金剛寺



▲ **26 木造阿彌陀如来坐像** **C-2**

西見寺は、新義真言宗智山派総本山智積院の末。本尊は大日如来。この阿彌陀如来坐像は、新しく建立された阿彌陀堂に勢至菩薩、観音菩薩とともに安置されている。

表面衣の部分は漆箔、肉身の部分は金泥で仕上げられている。袈の割形造り。薄く品のいい体軀、整然と美しい螺髪、流麗な衣文線など、平安時代末期の定朝様をよく伝えており、洗練された見事な芸術品といえる。像高51.3cm。

上脇下生の来迎印を結び、伏眼がちで気品のあるこの阿彌陀様を前にして、古来多くの人たちは、ただひたすらに極楽往生を祈ってきた。

(町指定有形文化財・彫刻／平成元年10月26日指定)
大字吹塚232 西見寺



▲ **27 石棺** **D-3**

組合せ式石棺は、古墳時代の埋葬方法の一形態で、大小6枚の長方形の石材に溝をうちがち、箱形に組み合わせたもので、箱式石棺とも呼ばれている。

この石棺は東大塚から出土し、墳丘上に放置されていたものを、川島中学校敷地内に移動し、復元保存したものである。用材は緑泥片岩で扁平な石材に凹凸を刻み、組み合わせ式に造られている。

石棺の造られた年代は不明であるが、この古墳から直刀、鉄鏃の出土が伝えられ、また埴輪片の出土から6世紀末ごろと推定されている。

(町指定有形文化財・考古資料／昭和36年1月25日指定)
大字白井沼230



▲ **28 薬師如来坐像** **D-2**

座高が38cmあり、ひのき材の寄木造りで、鎌倉期の作といわれる。

武蔵七十二番薬師記によると、この坐像は第三十七番に記され、近郷に並びなき秘仏であると語り継がれ、現在に至っている。

下ハツ林薬師堂の本尊である。

(町指定有形文化財／彫刻／昭和36年1月25日指定)
大字下ハツ林586 薬師堂保存会